〈研修会報告〉

令和五年度福岡県書写書道教育研究大会

鞍手高校　福嶋　千波

令和五年八月二十三日（水）に標記の大会が福岡教育大学アカデミックホールで開催されました。本年度の研究主題は「これからの書写・書道教育を考える　～小・中・高等学校の教育実践を通して～」であり、福岡県立青豊高等学校・岡部桂子先生の令和四年度部会事業・研究授業の紙面発表も含め、小・中学校の実践報告を主に発表がなされました。

はじめに、久留米市立荘島小学校・鈴木日奈乃先生の実践報告である「学びを日常生活に生かす子どもを育てる書写学習指導のあり方～課題解決をするための対話活動を通して～」では、パワーポイントのアニメーションを効果的に使用した文字教材を視覚的に用い、対話によって課題解決を図っていくという発表がなされました。題材は「竹笛」で、「竹」の文字単体で書写された際の書き方と、竹冠として書写された際の書き方の違いについて児童に発見させ、課題を解決させて書写を日常に生かす態度を養うという実践をされていました。また、大川市立宮前小学校・市川裕加里先生の実践報告である「自分のめあてに向かって主体的に学ぶ　子供を育てる書写学習指導」では、生徒の主体性を養うために、自分のめあてに沿った練習用紙を作成させるという発表がなされました。平仮名の結びが上手く書けない生徒は、「結び」の部分の籠字をきれいに取り、何度もなぞって練習ができるようにしていました。どちらの実践発表も、生徒が自ら課題を発見し、その課題を解決するために練習プリントを作成するなど主体性を育む素晴らしい実践であり、高校教育にも生かすことができればと感じました。

次に、春日市立春日東中学校・秋山美樹先生より中学校書写「好きな言葉を書こう」についての発表がありました。ＩＣＴを効果的に活用し、スクールタクトという授業支援クラウドを用いて、生徒間の交流を図るという報告でした。写真を撮った作品をスクールタクト上で共有することで、他の生徒の作品を見るだけでなく、その工夫点を知ることができ、自分の作品の工夫・改善を図る生徒が増えたことや、インターネットを用いて、題材とする語句を調べたことが、題材への深い理解へつながり、良い作品を制作することに繋がったということが成果としてあげられました。

最後に、福岡教育大学元大学院生の是永恵美子さんより、『高等学校「書道Ⅰ」仮名創作のための「デジタル連綿字典」の開発』という題で、研究内容とその成果である「デジタル連綿字典」の紹介、高等学校での実践事例の発表が行われました。「高野切第三種」「粘葉本和漢朗詠集」から二文字ずつの連綿で切り取り、ア行から順に整理したものになっています。仮名の創作の授業において、連綿や単体の仮名の美を教えるだけでなく、自然な連綿を書けるように指導をするのは私自身余裕がなく、難しいと感じていたので、一人一台タブレットがある今、ぜひ活用していきたいと考えています。